



年 組 名前

道新ワークシート

測量始める姿に

酒井さんが描いた伊能忠敬の銅像のデザイン（福島町提供）



【福島】江戸時代の測量家、伊能忠敬の没後200年を記念し、町が来年、町内に建てる銅像のデザインが、測量を始める伊能の姿に決まり、制作が順調に進んでいる。11月下旬には、鳴海清春町長や町史研究会が横浜市の制作現場を見学する予定だ。（高野渡）

福島町の伊能忠敬銅像デザイン

町長「この地にふさわしい」

銅像は台座が約2・5メートル、像が約2メートル。制作は同市在住の彫刻家、酒井道久さんに委託した。

デザインは町が酒井さんと協議。伊能が町吉岡に上陸後、かがんだ姿勢で当時の測量器具「穹窿羅鍼わんからしん」を使って測量を始める姿に決まった。銅像の原型となる石膏が完成し、近く鋳型を作る作業に取りかかるといふ。

鳴海町長は「測量する姿の銅像は、福島町から（道内の）測量を始めたという史実を伝えるデザイン。この地にふさわしい価値ある銅像になると思う」と話している。

鳴海町長と町史研究会は11月21日、千葉県香取市の伊能忠敬記念館を訪問。22日には酒井さんのアトリエを訪れ、銅像制作の様子を見学する。

2017年10月31日朝刊函館・渡島・松山版

- ①江戸時代の測量家、伊能忠敬の没後200年を記念して、福島町が町内に銅像を建てる計画を進めている理由は何ですか。
- ②あなたの住む地域に銅像を建てるなら、誰の銅像がふさわしいと思いますか。また、それはどうしてですか。